

ウ)浸透ゾーンの効果

赤土等流出防止対策として浸透ゾーンに濁水を浸透させることから、浸透ゾーンの効果（ろ過機能）について室内実験により検証を行った（実験結果の詳細は資料編参照）。ろ過実験に当たっては、「埋め立て護岸における裏込め砂の浄化効果に関する実験的研究；港湾技術研究所報告 第19巻 第2号」等を参考に、アクリルパイプ内に現地で採取した試料（琉球石灰岩φ5cm・L=10cm、沖積砂層φ10cm・L=100cm）を用いて供試体とし、ある濃度の濁水を供試体上面より注入し、供試体下面より流出する水を採水して濃度を測定した。

室内ろ過実験の結果、沖積砂層は、ろ過率98%以上とろ過機能が高いことが明らかになった。

琉球石灰岩については、個々の供試体により透水性及びろ過機能に多少の差が認められるが、ろ過率は概ね97%以上であった。

このため、沖積砂層および琉球石灰岩ともに濁水のろ過機能があり、地下水の水質（地下水の濁り）に及ぼす影響はないと判断される。

⑤濁水処理工

赤土等流出防止対策の最終施設にあたり、工事区域で発生した濁水を一定量貯留し、規定の水質まで処理した後に工事区域外に放流するための施設であり、排出基準SS25mg/L以下を確実に満足でき、濁水処理能力に優れる「機械処理方式」を採用する。

また、施工に当たっては処理水のSSを管理するため、沖縄県赤土等流出防止条例（平成6年10月、沖縄県条例第36号）で定める管理基準に基づき、事業区域内からの処理水のSSを測定・記録する。

ア)南側仮設調整池の規模の検討

施工段階毎に南側仮設調整池に流入する雨水排水の必要容量の算定結果を以下に示す。

- ・南側仮設調整池の工事中の必要容量について所要規模の計算方法は、工事中の浸透ゾーンと同様の方法により計算することとし（p6-1-21～23参照）、長期降雨強度によるものと短期降雨強度によるものがあるが、双方比較の結果、容量の上回る長期降雨強度を適用した。